

NEDO懸賞金活用型プログラム
衛星データを活用したソリューション開発
NEDO Challenge, Satellite Data
-農林水産業を衛星データでアップデート!-
応募要項（懸賞広告）

＜応募期間＞

応募開始日：2025年5月16日

締め切り日：2025年7月31日 正午

＜受付方法＞

本応募は、受付フォームのみで受付けます。

＜提出先＞

以下公式サイト上の受付フォームから提出ください。

<https://space-data-challenge.nedo.go.jp>

＜問い合わせ先＞

NEDO Challenge, Satellite Data運営事務局

メール：info@space-data-challenge.jp

（本事業全般に関するお問い合わせ）

2025年5月

NEDO Challenge, Satellite Data運営事務局

目次

I. 事業概要.....	1
1. 目的と趣旨	1
2. 本事業の特徴	1
3. 募集テーマ詳細	2
4. 提供する開発環境、及びテーマに関連したデータ.....	5
5. 専門家によるメンタリングの実施	10
II. 応募手続きと選抜プロセス.....	11
1. 応募と選抜のながれ	11
2. 応募資格.....	11
3. 応募期間.....	12
4. 事務局によるマッチング機会の提供.....	12
5. 応募説明会の開催.....	12
6. 応募書類と提出先	12
7. 質疑応答.....	13
III. 審査の方法.....	14
1. 審査方法.....	14
2. 審査基準.....	14
3. 審査結果の決定及び通知.....	15
IV. 表彰及び懸賞金の支払い.....	16
1. 懸賞金額.....	16
2. 支払時期.....	16
3. 支払方法.....	16
V. その他の留意事項	17
VI. よくあるご質問	19

Appendix: FAQ一覧

I. 事業概要

1. 目的と趣旨

我が国の農林水産分野を取り巻く環境は、国際情勢の不安定化や気候変動による異常気象の頻発化、人口減少や高齢化など、大きく変化しています。

このような中、令和6年5月に食料・農業・農村基本法が改正^{※1}され、先月（令和7年4月）には改正基本法に基づく「食料・農業・農村基本計画」が策定^{※2}されました。改正基本法は、その基本理念として「食料安全保障の確保」、「農業の持続的発展」、「環境と調和のとれた食料システムの確立」、「多面的機能の発揮」、「農村の振興」を定めており、基本計画においては、この実現を図るための、生産性の向上や付加価値の向上、輸出の促進、持続的な食料システムの構築、環境との調和等の基本となる施策が体系的に整理されています。

これらの施策を推進し、農林水産分野の課題の解決を図るためには、衛星や各種センサ等で得られたデータの活用を始めとする、農林水産業のあらゆる場面でのDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進・普及が不可欠です。一方、経済産業省、NEDOは、衛星を活用した様々な社会課題の解決に資するソリューション開発に取り組んでいます。本取組においては、2019年に経済産業省が立ち上げたクラウド環境上で誰でも衛星データを利用できるオープンプラットフォーム「Tellus（テルース）」を展開しています。

本事業は、農林水産分野の課題の解決を、衛星データ等を活用することで、より効果的に実現する技術を収集・分析し、将来の共同研究等に繋がる技術シーズを発掘するものです。本事業においては、より多くの革新的・独創的なアイデア・提案を収集する目的で、懸賞金型コンテストを実施します。

※1 食料・農業・農村基本法：<https://www.maff.go.jp/j/basiclaw/index.html>

※2 食料・農業・農村基本計画：https://www.maff.go.jp/j/keikaku/k_aratana/index.html

2. 本事業の特徴

- 本事業では、農林水産分野に関連した課題の解決に際して衛星データの活用可能性を大きく広げることのできる技術・ソリューションの提案及び社会実装を目指します。
- 農林水産分野において、技術的にも産業的にも意義が高く、実用化につながりやすい2つのテーマを設定します。
- 本事業では、広く提案を募る目的で希望者には事務局による課題ニーズ保有者と技術シーズ保有者のマッチングの機会を提供します。応募を躊躇されている方同士のマッチングに活用いただけます。
- 1次審査（スクリーニング）を通過した応募者には、希望に応じて衛星データプラットフォーム（Tellus）上の開発環境（コンピューティングリソース）や農業データ連携基盤「WAGRI」の利用機会を提供します。
- 専門家によるメンタリングを通じて、農林水産分野の提案を行う上で求められる情報解析技術や、ビジネスモデルの策定について、アドバイス等を実施します。
- 本事業終了後も農林水産分野における衛星データの活用ビジネスの拡大を加速させるために共同研究等につなげることを目指します。

3. 募集テーマ詳細

本事業において公募するテーマは、以下の通りです。（全2テーマ）

テーマ1：生産現場の課題解決に資する技術開発

テーマ2：資源の管理・監視および物流の高度化に資する技術開発

- 1 応募者による複数テーマへの応募は可能ですが、各テーマへの応募数は1つまでとします。
- 新規開発だけでなく、既存システムの機能性向上等を目指すもの、あるいは、既存システムを組み合わせ新たな付加価値を創出するものも対象とします。
- 昨年度実施した「NEDO Challenge, Satellite Data for Green Earth」のテーマとしていたカーボンクレジット、エネルギーマネジメント、気候変動・環境レジリエンスを主たる目的とした提案は対象外とさせていただきます。昨年度実施したコンテストの詳細は以下のURLを参照ください。

■ NEDO Challenge, Satellite Data for Green Earth ホームページ

https://space-data-challenge.nedo.go.jp/green_earth/

【テーマの詳細】

テーマ①：生産現場の課題解決に資する技術開発

- 衛星データ等を活用した農業・林業・水産業の生産現場の課題解決に資する技術開発を募ります。
(詳細は応募例を参照)

背景・課題

世界的な気候変動や異常気象などの影響により、農林水産分野における生産活動が不安定化している。また、食料安全保障上の懸念の高まりにより、生産性向上が求められる中、スマート農林水産業や衛星データ等の先進技術の活用による生産性向上、業務効率化に対する需要が増している。その他、農山漁村の持続的な生産基盤の維持・向上や担い手不足・スキル継承など生産現場における課題は多岐に渡る。

応募例

- スマート農林水産業の実現に向けた技術開発（農機・林業機材・漁船の自動化、スマート灌漑管理システム等）
- 持続的な農山漁村の維持・向上に向けた基盤整備に資する技術開発（水路・林道等の生産現場のインフラ整備などの土木分野や防災分野での衛星活用技術等）
- 食料安全保障の実現に向けた生産性向上に資する技術開発（土壌・生育予測、漁場予測、病害検知、鳥獣害対策等）
- 生産活動や供給能力の安定化に資する技術開発（異常気象や気候変動対策等）
- その他生産現場の課題解決に直結するソリューションの開発（栽培適地判定や技術継承、担い手不足等）

応募者への期待

上記のような課題解決をより高いレベルで満たす情報サービス、意思決定の支援システムのプロトタイプングやそれを実現する手法開発を期待します。

テーマ②：資源の管理・監視および物流の高度化に資する技術開発

- 衛星データ等を活用した農業・林業・水産業の資源管理・監視の高度化に資する技術開発を募ります。
- 衛星データ等を活用した農業・林業・水産業における国内外のサプライチェーンや輸出入等を含む物流の高度化に資する技術開発を募ります。
(詳細は応募例を参照)

背景・課題

農林水産資源の管理・監視においては、自治体や民間企業問わず多大な工数をかけて実施しているところであるが、人口減少の影響により既存の人員では対応が追い付いていない。その他、気候変動や異常気象を考慮した資源の保護、違法行為の取り締まり、広域な統計情報の作成など農林水産資源の管理・監視には多くの課題があり、高度・効率化が求められている。

昨今の食料品の価格高騰、海外情勢の不安定化による木材や輸入品目の価格高騰など、国内外のサプライチェーンの最適化や輸出入をはじめとした物流においては多くの課題が顕在化しつつある。このような状況下で農林水産分野における物流の高度化が求められている。

応募例

■ 管理・監視

- 自治体等が実施する現地確認業務や統計情報の作成の効率化に資する技術開発
- 農林水産資源の把握・管理・監視業務の効率化に資する技術開発
- 違法伐採、違法漁船、違法転用の監視業務の効率化に資する技術開発
- 農林水産分野における各種交付金支払い業務の効果測定業務に資する技術開発
- 海外の穀物主要生産地帯や木材の主要生産地帯の広域モニタリング技術の開発
- その他、農業・林業・水産業の資源管理・監視の高度化に資するソリューションの開発

■ 物流

- 食料価格の安定化に資する価格予測システム
- 木材のトレーサビリティの追跡技術の構築による産地証明の発行システムの開発
- IUU漁業に対処するための漁獲物の産地証明の発行システムの開発
- 輸入計画の最適化に向けた国内の需要予測システムの開発
- 漁獲物の販売価格の最大化に向けた最適な卸売市場の提案システムの開発
- その他、農林水産業における国内外のサプライチェーンや輸出入等を含む物流の高度化に資するソリューションの開発

応募者への期待

上記のような課題解決をより高いレベルで満たす情報サービス、意思決定の支援システムのプロトタイプングやそれを実現する手法開発を期待します。

4. 提供する開発環境、及びテーマに関連したデータ

本事業では、1次審査を通過した応募者に対して以下の開発環境を提供する予定ですが、本開発環境の利用は必須ではありません。また、クラウドGPUの提供については、ご要望に応じて事務局が検討します。

(1) 提供する開発環境

開発環境 Tellus	・株式会社Tellusのクラウド4コア8GBSSD100GB (2台) ・Tellus Satellite Data Master with QGIS (8GB) ※Tellus Satellite Data Master with QGIS (8GB)の環境は以下の通りです。 ・CPU 仮想 6Core メモリ 8GB SSD500GB
データ利用環境 WAGRI	WAGRIとは、気象や農地、収量予測など農業に役立つデータやプログラムをAPIで提供する公的なクラウドサービスです。 ※WAGRIのサービス利用をご希望の場合、事務局にてその費用を負担します。

(2) テーマに関連した入手可能なデータ

ご参考として、本テーマに関連するデータを例示します。一部地上データは、提供元へ利用可否の問合わせが必要です。また、下記例にないデータを持ち込むことも可能です（持ち込むデータの性質や内容を事務局が事前に確認することがあります）。有償データは、ご要望に応じて事務局が購入することも検討します。

【地上データの例】

WAGRIからAPIで取得できるデータの例

データ名称	概要
1kmメッシュ農業気象データ取得API	全国の日別気象データを約1km四方(基準地域メッシュ)単位で最長26日先までAPIで提供(14種類の確定値、予測値、平年値がシームレス接続された1kmメッシュ長期予報情報)
統合農地データ取得API	ID付与済みの筆ポリゴン（農地の区画情報）、農地ピン（農地区画の中心点）、土壌図を統合した農地情報をAPIで提供
市況API	青果物卸売市場調査結果など農林水産省の各種統計情報・市況情報をAPIで提供

その他の地上データ

データ名称	概要
ひまわり日射量データベース	気象衛星ひまわり8・9号の衛星画像を用いた、任意地点の日射量推定データ

データ名称	概要
NEDO日射量データベース	日本全土で実測・推測された日射量データ
NeoWins	シミュレーションから得られた海上風況データ
局所的風況予測モデル	気象予測モデルより推測された陸域風況データ
森林資源現況調査	樹種ごとの面積等の集計データ
森林生態系多様性基礎調査	森林・樹木に関するサンプリングデータ
国土地理院 災害関連情報	航空写真から読み取った浸水域や 土砂災害崩壊箇所のデータ
Global Forest Watch - Tree cover loss due to fire	Landsat画像から推定された、 全球の森林火災推定データ
ナウファス	過去分含めた波浪データ
自然環境調査Web-GIS	植生、動物生息域等のデータ
農林水産省 筆ポリゴン	農地の区画情報（ポリゴンデータ）
登記所備付地図データ	全国の登記所備付地図の電子データ （農地区画等も含まれる）
林野庁 高精度森林資源情報	航空レーザ測量成果から整備された樹種・樹高・材積等の森林資源情報や、起伏や傾斜等の地形情報のデータ
農研機構 日本土壌インベントリー	土壌の種類や性質、分布などの情報をまとめた土壌に関するデータベース
気象庁 各種気象データ	気象庁が公開する各種気象データ
農研機構 メッシュ農業気象データ	全国の日別気象データを、約1km四方(基準地域メッシュ)を単位に提供
農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）	海外を含む主要穀物等の主な生産地帯についてJAXAとNASAによる衛星観測から得られる土壌水分量、降水量、植生指標等の気象・植生データを国・区域ごとに可視化して提供
青果物卸売市場調査	全国の青果物卸売市場における日別の取引情報等を公開
水産物流通調査	主要冷凍・冷蔵工場における水産物の品目別月間入・在庫量及び月末在庫量を月別で公開

【衛星データの例】

Tellus上にあるデータ（自身の環境でもダウンロード可能な衛星データ）

データ名称	概要
ASTER GDEM ver.3	水平解像度30m相当、高さ精度約12m（日本域）の標高データ
AVNIR-2_1B1	「だいち（ALOS）」に搭載されたAVNIR-2という光学センサーで観測したデータ

<u>AW3D30</u>	「だいち（ALOS）」に搭載されたPRISMというセンサのデータを基に作成された数値標高モデルのデータ
<u>GCOM-C/CHLA 8日平均 (高次プロダクト)</u>	「しきさい（GCOM-C）」に搭載のSGLIというセンサで観測した情報からクロロフィルa濃度（物理量）を算出し、8日間分の情報を統計処理した全球のデータ
<u>GCOM-C/CHLA 準リアルタイム (高次プロダクト)</u>	「しきさい（GCOM-C）」に搭載のSGLIというセンサで観測した情報から、クロロフィルa濃度（物理量）を算出したデータ
<u>GCOM-C/SST 8日平均 (高次プロダクト)</u>	「しきさい（GCOM-C）」に搭載のSGLIというセンサで観測した情報から海面水温（物理量）を算出し、8日間分の情報を統計処理した全球のデータ
<u>GCOM-C/SST 準リアルタイム (高次プロダクト)</u>	「しきさい（GCOM-C）」に搭載のSGLIというセンサで観測した情報から、海面水温（物理量）を算出したデータ
<u>GCOM-C/TSM 8日平均 (高次プロダクト)</u>	「しきさい（GCOM-C）」に搭載のSGLIというセンサで観測した情報から懸濁物質濃度（物理量）を算出し、8日間分の情報を統計処理した全球のデータ
<u>GCOM-C/TSM 準リアルタイム (高次プロダクト)</u>	「しきさい（GCOM-C）」に搭載のSGLIというセンサで観測した情報から、懸濁物質濃度（物理量）を算出したデータ
<u>PALSAR_L1.1</u>	「だいち（ALOS）」に搭載されたPALSARというLbandの合成開口レーダ（SAR）で観測したデータ
<u>PALSAR_L2.2</u>	「だいち（ALOS）」に搭載されたPALSARというLbandの合成開口レーダ（SAR）で観測したデータ
<u>GOSAT/L2/SWIR CO2カラム量 (G1-01)</u>	GOSATに搭載のTANSO-FTSで観測した、短波長赤外（SWIR）の輝度スペクトルデータから算出した二酸化炭素カラム量データ
<u>GOSAT/L2/SWIR CH4カラム量 (G1-02)</u>	GOSATに搭載のTANSO-FTSで観測した、短波長赤外（SWIR）の輝度スペクトルデータから算出したメタンカラム量データ
<u>GOSAT/L2/SWIR H2Oカラム量 (G1-03)</u>	GOSATに搭載のTANSO-FTSで観測した、短波長赤外（SWIR）の輝度スペクトルデータから算出した水蒸気カラム量データ
<u>GOSAT/L2/TIR CO2濃度高度分布（日照） (G1-04-1)</u>	GOSATに搭載のTANSO-FTSで観測した、熱赤外（TIR）の輝度スペクトルデータから算出した二酸化炭素濃度高度分布（日照）データ
<u>GOSAT/L2/TIR CO2濃度高度分布（日陰） (G1-04-2)</u>	GOSATに搭載のTANSO-FTSで観測した、熱赤外（TIR）の輝度スペクトルデータから算出した二酸化炭素濃度高度分布（日陰）データ

GOSAT/L2/TIR CH4濃度高度分布（日照）(G1-05-1)	GOSATに搭載のTANSO-FTSで観測した、熱赤外（TIR）の輝度スペクトルデータから算出したメタン濃度高度分布（日照）データ
GOSAT/L2/TIR CH4濃度高度分布（日陰）(G1-05-2)	GOSATに搭載のTANSO-FTSで観測した、熱赤外（TIR）の輝度スペクトルデータから算出したメタン濃度高度分布（日陰）データ
GOSAT/L3/SWIR 全球CO2カラム平均濃度(G1-06)	GOSATに搭載のTANSO-FTSで観測したデータから算出した、二酸化炭素カラム量データから推定した二酸化炭素の全球カラム平均濃度分布データ
GOSAT/L3/SWIR 全球CH4カラム平均濃度(G1-07)	GOSATに搭載のTANSO-FTSで観測したデータから算出した、メタンカラム量データから推定したメタンの全球カラム平均濃度分布データ
GOSAT/L4A 全球CO2吸収排出量(G1-08)	GOSATに搭載のTANSO-FTSで観測したデータから算出した、二酸化炭素カラム量データから推定した二酸化炭素の全球吸収排出量分布データ
GOSAT/L4A 全球CH4吸収排出量(G1-09)	GOSATに搭載のTANSO-FTSで観測したデータから算出した、メタンカラム量データから推定したメタンの全球吸収排出量分布データ
GOSAT/L4B 全球CO2濃度(G1-10)	GOSATに搭載のTANSO-FTSで観測した情報から推定した、二酸化炭素の吸収排出量データから推定した二酸化炭素の全球三次元濃度分布データ
GOSAT/L4B 全球CH4濃度(G1-11)	GOSATに搭載のTANSO-FTSで観測した情報から推定した、メタンの吸収排出量データから推定したメタンの全球三次元濃度分布データ
GOSAT-2/L2/SWIR CO2カラム平均気体濃度(G2-01)	GOSAT-2に搭載のTANSO-FTS-2で観測した、短波長赤外（SWIR）の輝度スペクトルデータから算出した二酸化炭素カラム平均気体濃度データ
GOSAT-2/L2/SWIR CH4カラム平均気体濃度(G2-02)	GOSAT-2に搭載のTANSO-FTS-2で観測した、短波長赤外（SWIR）の輝度スペクトルデータから算出したメタンカラム平均気体濃度データ
GOSAT-2/L2/SWIR COカラム平均気体濃度(G2-03)	GOSAT-2に搭載のTANSO-FTS-2で観測した、短波長赤外（SWIR）の輝度スペクトルデータから算出した一酸化炭素カラム平均気体濃度データ
GOSAT-2/L2/SWIR H2Oカラム平均気体濃度(G2-04)	GOSAT-2に搭載のTANSO-FTS-2で観測した、短波長赤外（SWIR）の輝度スペクトルデータから算出した水蒸気カラム平均気体濃度データ
GOSAT-2/L4A 全球CO2吸収排出量(G2-09)	GOSAT-2に搭載のTANSO-FTS-2で観測したデータから算出した、二酸化炭素カラム平均気体濃度データから推定した二酸化炭素の全球吸収排出量分布データ
GOSAT-2/L4B 全球CO2濃度(G2-10)	GOSAT-2に搭載のTANSO-FTS-2で観測した情報から推定した、二酸化炭素の吸収排出量データから推定した二酸化炭素の全球三次元濃度分布データ

その他、衛星データ等の入手先(Tellusの開発/解析環境でのみダウンロード可能な衛星データ)

データ名称	概要
ASNARO-1_L1B	高分解能の光学衛星「ASNARO-1」のデータ
ASNARO-2_L1.1	「ASNARO-2」で観測した合成開口レーダー（SAR）データ
ASNARO-2_L1.5	「ASNARO-2」で観測した合成開口レーダー（SAR）データ
ASNARO-2_L2.1	「ASNARO-2」で観測した合成開口レーダー（SAR）データ
CE-SAT-IIB	超小型衛星「CE-SAT-IIB」で、2021年1月～2022年5月に東京都23区を中心に撮影した夜間データ
GRUS_L3A	Axelspace の地球観測衛星コンステレーションを構成する次世代リモートセンシング超小型衛星GRUSのデータ
PALSAR-2_L1.1	「だいち2号（ALOS-2）」に搭載されたPALSAR-2というLbandの合成開口レーダ（SAR）で観測したデータ
PALSAR-2_L2.1	「だいち2号（ALOS-2）」に搭載されたPALSAR-2というLbandの合成開口レーダ（SAR）で観測したデータ
SLATS_1B	「つばめ（SLATS）」に搭載のSHIROPという光学センサ（パンクロマティック）で観測したデータ
光学マルチバンド(0.8m/3.2m)データ	光学マルチバンド(0.8m/3.2m)データ相当性能のリサンプリングデータ

その他、衛星データ等の入手先

提供元	概要
NASA - Earthdata	米国航空宇宙局（NASA）の地球観測データのポータルサイト
ESA - Copernicus	欧州宇宙機関（ESA）が管理する地球観測プログラム
Google Earth Engine	地球の様子を衛星画像によって可視化、分析できるクラウドベースの地理空間分析プラットフォーム
G空間情報センター	地理空間情報の有効活用と流通促進を図り、社会課題を解決するアクターの後方支援を行うためのデータ流通支援プラットフォーム

【その他関連サービス】

測位衛星（みちびき）サービス

サービス名	参考URL
高精度測位補強サービス（MADOCA-PPP）	高精度な測位補強サービスを提供するために、国内外のGNSS監視局網の観測データに基づき測位衛星に起因する誤差を計算し、みちびきのL6信号により補正データを送信するサービス

信号認証サービス	GNSS受信機で受信した信号が実際に測位衛星から送信された信号であることを確認できるサービス
GNSS統合データ共有システム「MIRAI」	MADOCa-PPPの補正データの生成に必要な国内外のGNSS監視局網で観測されたリアルタイムデータを収集するシステム

5. 専門家によるメンタリングの実施

本事業では、1次審査を通過した応募者に対して適切な専門家（メンター）による技術面あるいはビジネス開発面でのメンタリングを実施し、ネットワーキングの機会を提供します。また、頻度や実施内容については、可能な限りメンタリングを受ける方々の要望に応じ調整します。

種類	内容	実施方法
合同ワークショップ （適時実施）	オンライン形式のワークショップを開催し、事業化やプレゼン技能習得を基本とします。（6回程度開催予定。ただし、初回以降は任意参加。）	ネットワーキング 以外は原則としてオンライン開催。 初回はハイブリット開催を予定。
ネットワーキング	上記合同ワークショップの中で共同研究等に繋げるための支援の一環としてネットワーキングの機会を提供します。（2回程度）	
個別メンタリング （希望制で毎月実施予定）	研究開発の進捗管理のための定期ミーティングと、個々の研究開発に応じて技術や事業化に関するメンタリングを実施します。 ・技術メンタリング ・事業化メンタリング ・月次進捗管理（メールでの提出を予定）	
その他 （必要に応じて事務局が企画）	個別メンタリングを通じて把握した通過者の要請等に基づき、共同研究等の相手先の紹介や宇宙、農林水産分野におけるコミュニティとの意見交換を実施します。 ・個別メンタリングとあわせて実施 ・その他、適宜必要に応じて実施	

メンターは、リモートセンシング技術や測位技術、農林水産分野に関する専門家だけでなく、本事業で提案されたシステムのユーザーとなる産業界からも有識者を選定し、ユーザーとしてのニーズや課題、悩み等に関する助言を行います。

また、事業化やビジネスモデルの策定手法及びピッチコンテストにおけるプレゼンテーションに関するアドバイス等も提供する予定です。

なお、メンタリングを担当した専門家から本事業終了後においてビジネス提案に対する支援を受けられることを確約するものではありません。

II. 応募手続きと選抜プロセス

1. 応募と選抜のながれ

応募提案に対し、書類選考による1次審査、プレゼンテーション（ピッチ）方式による2次審査を行います。

1次審査を通過した応募者に対しては、開発環境の提供および専門家（メンター）によるメンタリングを受ける機会を提供します。2次審査では、一般公開の場でのプレゼンテーション（ピッチ）方式による審査を行い、受賞者を選定します。詳細につきましては、順次発表します。



2. 応募資格

- ① 本事業では、法人・個人・グループを問わず応募することが可能であり、大企業やスタートアップ、上場/非上場の別は問いません。ただし、日本国に籍を有する個人、グループおよび日本国の法人格を有する民間企業、大学・公的研究機関等であることとします。
- ② 事業管理上、NEDOの必要とする措置を適切に遂行できること。
- ③ NEDO「懸賞金の交付等に関する規程」第5条（応募者の暴力団排除に関する誓約）の事項（以下に記す）のいずれにも該当しないこと。
 - 一 法人等（個人、法人又は団体をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2項に規定する暴力団をいう。以下同じ。）であるとき又は法人等の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。）が暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき
 - 二 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき
 - 三 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき
 - 四 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれと社会的に非難されるべき関係を有しているとき
- ④ 企画運営事業者（PwCコンサルティング合同会社、宇宙サービスイノベーションラボ事業協同組合）と同一の企業・団体に属している者は提案代表者および参加者にはなれません。
- ⑤ 応募（成果提出）締切日時までに成果を提出すること。
- ⑥ 提出する成果は「国の競争的研究費（内閣府の「競争的研究費制度」に該当するもの）」のみで作製されたものではないこと。
- ⑦ 「補助金交付等停止措置」に該当中の者ではないこと。「補助金交付等停止措置」の該当者は

NEDO HP内に掲載されている者とします。

3. 応募期間

公募開始日：2025年5月16日

締め切り日：2025年7月31日 正午

4. 事務局によるマッチング機会の提供

本事業では、広く公募を募る目的で事務局による課題ニーズ保有者と技術シーズ保有者のマッチングの機会を提供します。

本コンテスト参加候補の情報およびマッチング希望者情報を収集・共有することで、「農林水産分野の課題ニーズは把握しているがソリューション開発技術の知見がない。」や、「ソリューション開発技術シーズは有しているが、農林水産分野の実用先が見えていない。」等の応募を躊躇されている方同士のマッチングに是非ご活用ください。

なお、マッチングについては確約できるものではありませんので予めご了承ください。

応募受付期間：2025年4月25日（金）～6月30日（月） 正午

応募方法：下記公式サイト上のマッチングプログラムの応募フォームにアクセスいただき、必要事項の記入・提出いただくことで応募が可能です。

■NEDO Challenge, Satellite Data -農林水産業を衛星データでアップデート!-

<https://space-data-challenge.nedo.go.jp>

5. 応募説明会の開催

応募説明会をオンラインで実施します。当日参加できない方は後日アーカイブをご視聴ください。

開催日時：2025年6月4日（水）10：00～11：00

参加方法：公式サイト上でご案内します。

アーカイブ視聴方法：公式サイト上で公開します。

6. 応募書類と提出先

（１）応募書類

公式サイトから提出書類一式をダウンロードし、必ず応募期間内にWeb申込受付フォームから必要情報の入力と提案書及び関連資料のアップロードを行ってください。指定された様式以外での応募は認められません。

（２）提出先

公式サイトにある受付フォームより提出してください。

締め切りを過ぎての提出や応募受付完了後の書類等の変更、差し替えは認められません。

(3) その他

提出された応募書類一式は本事業における審査の目的及び広報活動に関するコンテンツ利用以外には使用しません。機密保持には十分配慮しますが、採択された場合には、「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」（平成 11 年 5 月 14 日法律第 42 号）に基づき、不開示情報（個人情報、法人の正当な利益を害する情報等）を除いて、情報公開の対象となりますのでご了承ください。

尚、応募締め切り後に、内容について確認等の連絡を行う場合があります。

7. 質疑応答

ご応募に際しての質疑応答は、電子メールでのみ実施します。以下の方法以外での問い合わせについては応じかねますので、あらかじめご了承ください。

<質問受付>

質問事項は以下の事務局あてに電子メールにてご提出ください。

なお、連絡の際は、メールの件名に必ず「質問（NEDO Challenge）」と記載し、本文に「所属団体名」、「担当者名」、「メールアドレス」を明記ください。

NEDO Challenge, Satellite Data運営事務局メール：info@space-data-challenge.jp

受付期限：2025 年 7 月 25 日（金）正午迄

<質問回答>

ご提出いただいた質問へは、原則 3 営業日以内に事務局から電子メールにて回答します。

尚、よくある質問は、一定程度まとまったタイミングで公式サイト上にて公開します。

III. 審査の方法

1. 審査方法

審査は、応募書類に基づいて当該領域の有識者で構成する審査委員会を設置し、実施するものとします。必要に応じて申請者に対してヒアリング等を実施するほか、追加資料の提出を求めることがあります。民法に基づき、以下の審査を経て決定した受賞者に懸賞金を支払います。

2. 審査基準

以下の審査項目に基づいて総合的な評価を行います。

- 1次審査は、以下の審査項目を適用します。2次審査は、開発後の成果物を審査する視点で、別途審査項目を設定します。
- 審査委員のうち、各応募者と利害関係を有するものは、その応募者についての審査から外れることとします。

(※) 利害関係者の範囲について

- 一 審査を受ける者の配偶者、四親等内の血族、三親等内の姻族若しくは同居の親族にある者
- 二 審査を受ける者と大学・研究機関において同一の学科・研究室等又は同一の企業に所属している者
- 三 審査を受ける者が提案する課題の中で研究分担者若しくは共同研究者となっている者又はその者に所属している者
- 四 審査を受ける者が提案する課題と直接的な競争関係にある者又はその者に所属している者
- 五 その他NEDOが利害関係者と判断した者

提案書を作成する際に、以下の4項目について判断基準となる記載を必ずすべてご記入下さい。
尚、応募締め切り後に、内容について確認等の連絡を行う場合があります。

審査基準	審査項目
課題の妥当性と解決への貢献度	農林水産分野に関するテーマ課題に基づき、衛星データを活用したサービスを創出すること ● 設定されたテーマに係る課題を的確に捉えているか ● 提案されたアイデアは、設定された課題解決への貢献が見込めるか、など
衛星データ活用の有効性	提案のシステムを実現するにあたり、開発の基となる衛星データ利用に関する技術が実現可能なレベルにあること、またその活用範囲が十分であること ● 衛星データを利用した開発を進めるための技術シーズを有しているか、あるいは技術シーズを創出できる見込みがあるか ● アイデアにおいて衛星データが効果的に活用されているか、など
サービスの新規性	農林水産分野において、衛星データを活用した新たなサービスを創出すること ● これまでにない新しいサービスであるか （既存システムの機能性向上、あるいは、既存システムを組み合わせ新たな付加価値を創出しうるものも含む）
実用化による社会発展性	開発されたシステムやそれを活用したサービスについて、社会全体への波及効果が期待できるものであること ● 実用化に向けたスケジュールとプロセスが示されているか ● 実用化に向けた想定ユーザー、ステークホルダー、市場ニーズや付加価値等が示されているか ● 実用化による社会的インパクトは十分に大きいのか、など

3. 審査結果の決定及び通知

1次審査、2次審査の審査結果については、NEDOホームページ及び公式サイトにて公表し、また全ての応募者へ電子メールにて通知します。

NEDOホームページ及び公式サイトでは、1次審査の通過者、2次審査の受賞者それぞれの代表者を公表します。（代表者が法人であれば法人名、個人であれば個人名）ニックネームは不可とします。

なお、審査結果に関するお問い合わせには一切応じかねますので、あらかじめご了承ください。

- 1次審査の結果公表：2025年10月上旬（予定）
- 2次審査の結果公表：2026年7月中旬（予定）

IV. 表彰及び懸賞金の支払い

1. 懸賞金額

テーマ	懸賞金額
テーマ1：生産現場の課題解決に資する技術開発	1位：1,000万円 2位：500万円 3位：300万円
テーマ2：資源の管理・監視および物流の高度化に資する技術開発	1位：1,000万円 2位：500万円 3位：300万円

- 2位以下の同位受賞者が存在した場合には、各位2者まで選定します。その際の賞金額については、上記の通りとします。ただし、2位が2者存在した場合には、3位の受賞は行わないものとします。
- 上位3位までには選定されなかったが、公共性・公益性が高く、将来的に社会課題解決につながり得ると判断されたものについては、それぞれのテーマで審査委員特別賞を授与することがあります。

なお、いずれも、審査の結果、該当なしとなる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

- 「成果物の創出に要したコスト」等の提出は不要です。

2. 支払時期

懸賞金の支払いは、受賞者決定後の2026年9月末までに一括精算払いとなります。

3. 支払方法

- 受賞者決定後、受賞者からの請求書の提出をもって受賞者にNEDOが一括で支払います。
- グループ体制の場合、代表者が請求書において賞金を代表で一括受領する参加者一者（代表者自身でもかまわない）を指定し(海外口座の指定は不可)、NEDOは同者に同グループへの懸賞金全額を振り込みます。
- 請求書の発行については、別途受賞者（応募の代表者）へ事務局からご案内します。
- 受領後に必要な税務等の手続きについては、受賞者にて適切にご対応ください。

V. その他の留意事項

(1) 参加に係る費用と環境整備

応募・1次審査・2次審査及びメンタリング等の参加に係る費用は各自でご負担ください。また、これらに参加するためのオンライン環境は各自でご用意ください。

(2) 知的財産権について

応募された提案に関する著作権その他の知的財産権は応募者に帰属します。応募された提案は、第三者の著作権その他知的財産権を侵害していないものに限りです。万一、応募提案が第三者の権利を侵害している場合又は侵害するおそれがあると事務局が判断した場合(応募後に侵害となった場合を含みます)、受賞発表後でも受賞を取り消すことがあります。

(3) 広報目的での情報発信

応募書類に記載された情報や2次審査における様子等は、事務局が広報PRのために、雑誌、書籍、ウェブサイト、メールマガジン等の各種媒体で発表又は利用する場合があることにつきご了承ください。これに伴って、応募者が記載した情報の一部を要約・翻訳などの変更を行うことがあります。

(4) 開発費用のヒアリング

2次審査の出場者には受賞の有無にかかわらず、応募及び1次審査通過後の開発に掛かった費用についてヒアリングさせていただく場合があります。

(5) 個人情報の取り扱い

本事業への申請に係る提出書類により事務局が取得した個人情報については、以下の利用目的以外に利用することはありません。(ただし、法令等により提供を求められた場合を除きます)。

- 本事業の応募者審査・選考・事業管理のため
- 選抜後の事務連絡、資料送付等のため
- 申請情報を統計的に集計・分析し、申請者を識別・特定できない形態に加工した統計データ作成のため

(6) 応募内容、応募書類の公開について

提出された応募書類については、「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」(平成11年5月14日法律第42号)に基づき、不開示情報(個人情報及び法人等又は個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるもの等)を除いて、情報公開の対象となります。なお、開示請求があった場合は、不開示とする情報の範囲についてNEDOとの調整を経て決定することとします。

(7) 交付決定の取り消し事由

次のいずれかに該当するときは、受賞の決定を取り消します。

- 受賞者が、法令等に違反したとき
- 受賞者が、懸賞金の交付等に関して不正をしたとき
- 受賞者が、本応募要項の応募資格に関して虚偽があったとき

なお、受賞の決定を取り消した場合において、既に受賞者に懸賞金が支払われているときは、受賞者に対して、懸賞金の返還を請求します。

(8) アンケートへの協力依頼

コンテスト終了後、アンケートへのご協力をお願いします。

(9) 内容変更

本内容に変更がある場合には、公式サイト (<https://space-data-challenge.nedo.go.jp>) にてお知らせします。

VI. よくあるご質問

【応募について】

Q. 海外の機関も応募可能か。

A. 不可となります。応募対象は日本国内の個人・グループ・法人となります。

Q. 部分的に国の競争的研究費を用いているものは問題ないか。

A. 部分的に競争的研究費を用いているものは、応募対象として問題ありません。

Q. 他の受託事業・補助金等を受けているテーマで応募しても問題ないか。

A. 国の補助金・受託事業と全く同一の内容での応募はNGとなります。

Q. すでに技術開発している成果（まだ市場に出ていないもの）をベースに仕立て直すのもよいか。

A. 本事業をきっかけに事業化や社会実装に向けた取り組みを開始するものも応募対象とします。ただしすでに開発された技術に関しては、応募者が権利を有しているものである必要があります。

Q. 審査委員が所属する企業から応募してもよいか。

A. 応募可能です。ただし、審査委員は応募時点では非公開となっているため、審査委員のうち、各応募者と利害関係を有するものは、その応募者についての審査から外れることとしております。

Q. 代表者もしくはメンバーを分ければ1社から複数応募可能か。

A. 代表者の重複がなければ、同一の企業や団体であっても別応募者とみなします。重複がある場合は、提案を1つにまとめる等、提案の質を上げることで重複応募を回避してください。

Q. 求められる成果物のレベルはどの程度か。

A. 1次審査は構想文章で構いません。2次審査では何らかのシステム構築を求めます。

Q. 応募者資格の「NEDOの必要とする措置を適切に遂行できる必要」とは何か。

A. 応募要項に記載のプロセスや各種手続き、期限等を守っていただくことを指しています。

Q. 応募にあたり、海外の関係会社（完全子会社）に委託することは可能か。

A. 応募者については日本国内の個人・グループ・法人でなければなりませんが、海外の関係会社については、以下の扱いとします。

- ・資本関係のある子会社の場合：応募者に含めることができる。

- ・資本関係のない別会社の場合：応募者に含めることはできないが、委託あるいは外注により、

提案の一部設計／製作を担うことができる。

Q. どのテーマが適しているか、事務局に相談させていただくことは可能か。

A. テーマ選定について、お問い合わせいただければ柔軟に相談に応じます。

Q. 他のNEDO案件と並行して応募可能か。

A. 全く同一の内容でなければ、応募可能です。

Q. 応募受付期間中(7/31まで)であれば、内容を修正して再提出可能か。

A. 提案書の再提出は可能です。方法は以下 2 通りあります。

・応募フォーム経由で再登録、再提出。（応募者メンバー変更も含むような大きな変更の場合）

・問い合わせメール経由で、提案書のみを再提出。（提案書のための軽微な変更の場合）

Q. 測位衛星の利用を目的としたテーマでの応募は可能か。

A. 測位衛星を活用した課題解決のための技術・サービス開発提案は応募可能です。ただし、地球観測衛星データの利用がない、もしくは背景図等の利用に留まる場合には応募不可となります。また、測位受信機等のハードウェア開発や測位精度向上のみでの応募も不可となります。

Q. スタートアップが機関投資家から資金調達を行っている場合、応募は可能か。

A. スタートアップ等について、機関投資家等から資金調達を行っている場合であっても応募可能です。

【提案書について】

Q. 提案書には、文字以外にも図などを入れてもよいか。

A. 文章を補足するための簡単な図表を各項目1件のみ追加することが可能です。

Q. 提案書の「実施スケジュール」の部分は具体的にどのように書けばよいか。

A. 1次審査通過後から2次審査までの(2025年11~2026年5月)のスケジュールを月別に記載してください。

Q. 提案書に不備等ないか事前に確認いただけるか。

A. 事務局による応募内容の事前チェックは致しかねます。ただし、締切りより早く提出いただいた場合、書類に不備があれば事務局より指摘し、締切りまでに修正・再提出いただくことは可能です。

【応募書類について】

Q. 応募用紙の住所や連絡先は会社のものと個人のものをどちらを記載すればよいか。

A. 法人として応募する場合は法人用申請書に法人情報を、所属する法人に関係なく個人として応募する場合は個人用申請書に個人の情報を記入して応募してください。

Q. 2社以上でコンソーシアムを組む際は、応募の参加団体欄には複数社名を記入するだけでよいのか。その他要件はあるか。

A. コンソーシアムの構成員企業については代表機関と同じ資格要件を備えている必要があります。従いまして、応募申請書のなかに代表機関と同様、団体概要と連絡担当窓口をご記載ください。

Q. 会社内業務とは別に有志メンバーで応募する場合、応募申請書は法人用と個人用のどちらで出せばよいのか。

A. 社内業務とは別に有志メンバーで応募される場合は、「個人用」をご使用ください。

Q. 代表者ならびにメンバー全員の名前を記載する必要があるか。

A. 代表者ならびにメンバー全員の名前を記載してください。

【メンバーについて】

Q. コンソーシアムを組む場合、代表企業以外にも公開してもらうことは可能か。

A. 代表企業のみでも、全企業公開でも問題ございません。

Q. 途中で個人応募から法人応募に切り替えることは可能か。

A. エントリー形態を法人応募に切り替えることについては、特に問題ございません。変更される場合にはなるべく早めにお決めいただければと思います。決まりましたら事務局までお知らせください。

Q. 途中からメンバー追加は可能か。

A. 可能です。早めの申請をお願いします。

【懸賞金について】

Q. 今回の懸賞金制度は、助成金制度の一種のような位置づけか。

A. 本事業における懸賞金は助成金とはそもそも性質を異にするものでございます。なお公募要項上、助成金の支払い時に用いられる「精算払い」との文言がありますが、これは単に懸賞金受給者が確定したのちに一括で懸賞金が支払われるという意味であり、実費負担等の概念とは異なるものとご理解いただけますと幸いです。

Q. 受賞できなかった場合は、一切金銭的な補助はないのか。

A. 金銭的な補助はございません。

【知的財産権等について】

Q. 1次審査を通過し、システム開発をしたものについては、応募者のビジネスモデルとして使うことができるか。

A. 本事業において発生したすべての知的財産については、応募者に帰属することとなります。従いまし

て、この度開発された知的財産を活用してビジネスを運営していくことについて制約はございません。

Q. システムのソースコードは提示する必要があるか。

A. ソースコードの提出を求めることはありません。

Q. 知的財産権は守られるのか。

A. 本事業において発生したすべての知的財産については、応募者に帰属することとなります。従いまして、この度開発された知的財産を活用してビジネスを運営していくことについて制約はございません。

Q. 開発期間中に事業化/利益化してもよいか。

A. 開発期間中に事業化/利益化しても構いません。

【データについて】

Q. データをNEDOで購入してもらうことはできるか。

A. 有償データは、ご要望に応じて事務局が購入することも検討します。

Q. 有償データをNEDOで購入してもらう場合、購入可否はどの段階で判断されるか。

A. 公平性が担保されると判断できれば、速やかに購入を検討します。

Q. 海外のデータを利用してもよいか。

A. 海外のデータを利用していただいても大丈夫です。

Q. 一部地上データは提供元へ利用可否の問い合わせが必要と記載があるが、どなたに問い合わせすればよいのか。

A. 応募要項等に参考データを記載しておりますが、それぞれ利用要件が個別にありますので、詳細は応募者の方でご確認をお願いします。

Q. 一部地上データは提供元へ利用可否の問い合わせが必要と記載があるが、問い合わせをして利用不可となることはあるのか。

A. 基本的にはオープンデータとなりますが、詳細につきましては応募者自身でデータ提供元へご確認をお願いします。

Q. データはどのような形式で提供いただけるのか。

A. 各データの提供元の仕様に沿って、公開されているデータの形式で入手をお願いします。

Q. 使用するデータはあくまで応募者に任せられるということか。

A. ご提示しているのはあくまで参考データですので、使用するデータは応募者ご自身でご判断いただければと思います。

Q. 現地観測データについて、観測データが日本にない場合、海外のデータを利用してもよいか。

A. 利用いただくことに問題はありません。

Q. WAGRIを利用するにはどんな手続きがあるのか。

A. 別途希望を募りますが、本コンテストの開発期間内に限りWAGRIの利用に係る登録および費用は事務局側にて負担させていただきます。その他は農業データ連携基盤（WAGRI）利用規約に準じます。

Q. WAGRIオプションAPIは利用できるのか。

A. 今回事務局側から提供させていただくAPIはベーシックAPIと無償オプションAPIに限ります。
WAGRIが提供する主なAPI (<https://wagri.naro.go.jp/api-html/>)

Q. 既にWAGRIデータ利用会員だが本コンテスト用に別途申し込みが必要か。

A. 本コンテスト用の申し込みは不要です。その場合の費用負担はございませんので、ご了承ください。

【開発環境について】

Q. 開発・デモ環境は自前の環境を使ってよいか。

A. 1次審査を通過した応募者に対して開発環境を提供する予定ですが、本開発環境の利用は必須ではありません。

Q. Tellus環境やWAGRIの利用を申し込むにはどうすればいいのか。

A. 1次通過者向けの合同ワークショップにてご案内予定です。

最新のFAQについては公式サイト内 (<https://space-data-challenge.nedo.go.jp>) にてご確認ください。

以 上